

Linux、Windows混在環境の システム復旧体制を構築、 自社と顧客双方へのさらなる 安心・安全を提供する

社内サーバのバックアップをArcserve D2Dに統一し、高運用性を実現



ユーザプロフィール

業 種：IT機器のレンタル、中古販売、保守、ソフトウェア販売
会 社 名：アプライドテクノロジー株式会社

課 題

法人向けのレンタル事業や保守サービス事業、そしてEC事業を展開するアプライドテクノロジーは、顧客情報の堅牢な管理と業務の効率化を図ることが必須である。Windows系システムでは低コストで運用効率の高いバックアップ環境を既に構築していたものの、Linux系のシステムに関しては新たなバックアップ環境の構築が求められていた。

経 緯

Linux系システムではほぼ1ヶ月に1度、バックアップデータをテープメディアに保管して業者に送付していたが、BCP/DRなどの見地からディスクバックアップとAmazon S3の活用が検討された。日々のバックアップ作業も、より少ない人数で手間のかからない体制が求められるようになった。

導 入

そこでArcserve D2D for Linux r16.5の導入を決定。評価版での検証からわずかの期間で実機による導入を実現した。先に導入していた Arcserve D2D for Windowsと併せて、NASへのバックアップと、Amazon S3へのバックアップデータのコピーというBCP/DR体制を確立した。

効 果

サーバごとに異なる画面で行わなければならなかったバックアップ状況の確認が1台のPCから1人でも十分に行えるようになり、運用管理業務の大幅な負荷低減を達成。自社導入の成果を踏まえて、顧客のサーバ構築の案件においてもArcserveシリーズの提案と提供にますます注力していく構えだ。



arcserve®



アブライドテクノロジー株式会社
代表取締役 社長
喜田 寿一氏

IT機器のレンタルやメーカーサポートとは別の独自の保守サービスを展開するアブライドテクノロジー株式会社。高い技術力と調達力を背景に、企業のITインフラに対するニーズに柔軟かつ迅速に應じる同社では、Windows系システムに続いてLinux系システムでもバックアップ環境の効率化が懸案事項となった。そうした課題を解決したのが、「Arcserve D2D for Linux」だった。

事例企業のご紹介

最新鋭から旧型まで、あらゆるIT機器を即座にレンタル、そして独自に保守サポート

めまぐるしい勢いで進化を続けるITを、最大限ビジネスに生かすために、企業ではITシステムを柔軟かつ迅速に導入・更新することが求められている。そうした一方で、一度導入してシステムや機器を長期に渡って使い続けなければならないケースも存在する。

このようなユーザーニーズに応えるべく、サーバやPC、ネットワーク機器のレンタルやそれらの中古機器の販売、そして保守サービスなどを手がけるのが、アブライドテクノロジーだ。同社は、最新鋭機器の短期レンタル、EOL(メーカー保守の終わった旧型の機器)となった製品や部品の提供、コストを最小限に抑えた中古機器の提供に加えて、顧客から依頼された機器のテストや修理、保管などといった業務までをメーカーの種類を問わずに手がけている。

「現在の法人ITの利用実態を鑑みると、マルチ・ベンダー・サポートは必須のものといえます。機器の保守などに膨大な種類の部品を複数の場所に用意する必要があるのです。そこで当社では、数十万点に及ぶ部品在庫を有するとともに、希少な部品であっても世界中のパートナーから即時調達できる体制を整えております」と語るのは、同社の代表取締役社長、喜田寿一氏だ。

実際、少しでも早く製品をレンタルできるよう、アブライドテクノロジーではオフィスを倉庫内に構えている。営業部隊と技術部隊が同じ倉庫で働くことで、意思疎通がスムーズに行え、また顧客から問い合わせがあった時などには製品の状態をすぐに確認できるのである。

IT機器の保守サービス事業については、レンタルから返ってきた製品部品を効果的に活用するなど、独自のサービスを展開している。一般のメーカーでは、ハードウェアの保守サービスはおおよそ5年ほどで打ち切られてしまうが、顧客はより長いサービスの提供を求めることも多いため、アブライドテクノロジーでは独自に、部品の提供や同社スタッフによる修理、メンテナンスを実施している。

喜田氏は言う。「メーカーの保守サービスや代行保守サービスは、一般的に費用が高額なうえに、旧式の製品だとサービス対象外となってしまうこともあります。しかし当社の保守サービスは独自展開ですので、費用を抑えられるだけでなく、メーカーのサービス対象外となってしまった古い機種にも対応しております」

このように、独自に製品や部品の保守を行える高い技術力もまた、アブライドテクノロジーの大きな強みとなっているのである。

他にも、中古IT機器の法人向け販売事業を、同社が運営するWebサイト「東京ハードウェア・ストック」を通じて行っており、日本全国に顧客を抱えているのである。

課題

Windows系に続き、Linux系も併せた信頼性の高いバックアップ環境構築が課題に

そんなアブライドテクノロジーでは、同社の事業に欠かせない顧客からの信頼をさらに強固なものとするべく2009年にプライバシーマークを取得した。その際に課題となったのが、大切な顧客データなどを万が一にも失うことのないよう、「システムのバックアップをいかに行うか」だった。そこで同社は、複数のベンダー製やフリーソフトウェアなどが混在していたそれまでのバックアップソフトウェアを一新した。導入・運用が簡単なおうえに最もコスト効率が良かったことから、ディスクバックアップに特化したArcserve社のイメージ・バックアップ・ソフト「Arcserve



アブライドテクノロジー株式会社
技術本部
インフラ構築サービス部 次長
政 邦雄氏



アブライドテクノロジー株式会社
技術本部
インフラ構築サービス部
大村 保貴氏

D2D for Windows」へと統一を図ったのである。

こうしてメールサーバの他、Windows系の十数台のサーバについては効率的なバックアップ環境を手に入れた同社であったが、続いてLinuxで稼働しているグループウェアシステムの「サイボウズ Office」についてもより安定したバックアップ環境の構築が検討された。

従来、Linux環境についてはテープメディアにバックアップを行い、それを1ヶ月に1度業者に送付する事で、万一の災害への備えとしていたが、1ヶ月前のデータを復元できただけでは業務を円滑に再開するには心もとない。また、システム障害時にはデータ復旧前のOSの再インストール等の手間を省き、できるだけ迅速に復旧する必要があった。

「お客さまのサーバ構築やサポートも実施しているのでバックアップの大切さについてはよく知っているつもりです。お客さまには、とにかく日々のウイルスチェックと併せてバックアップも欠かさないう口を酸っぱくして言っていますが、当社自身についても改めてバックアップ環境を強化しようということになったのです」と話すのは、技術本部 インフラ構築サービス部の次長、政邦雄氏である。

経緯・導入

評価版で操作性を検証！BCP実現のためクラウドも活用

こうした状況を受けて、まずアプライドテクノロジーではオープンソースのバックアップソフトウェアの検証を行った。しかし、バックアップはうまくいくもののリストアがうまくいかなかった。そうしたなか同社が目つけたのが、2013年7月に販売が開始されたばかりだった「Arcserve D2D r16.5 for Linux」である。使い慣れたArcserve D2DシリーズのLinux版であることもあり、さっそく無償セミナーに参加した。

「9月にArcserve社のセミナーで『Arcserve D2D for Linux』の評価版が提供されているのを知り、それを使ってすぐに検証しました。すると問題なく動いたので、さらなる検証を重ねるうえで導入するに至ったのです。ベアメタル復旧(注1)のテストも実施し、こちらも問題なく成功しました。検証を開始してから導入までこれだけ短期間で済んだのも、Arcserve D2D for Linuxならではのと思っています」と、実際に検証を行った技術本部 インフラ構築サービス部の大村保貴氏はその導入の簡易さを評価する。

現在、同社はArcserve D2D for LinuxをCentOS上でサイボウズ Officeのバックアップに使用している。使用容量は60GB程度で、28世代(1日1世代)のバックアップを行っている。

また、従来から導入されているArcserve D2D for Windowsでは、i2テクノロジー(注2)を使用し、38世代(1日1世代)のバックアップデータを保存。無償の統合管理機能である

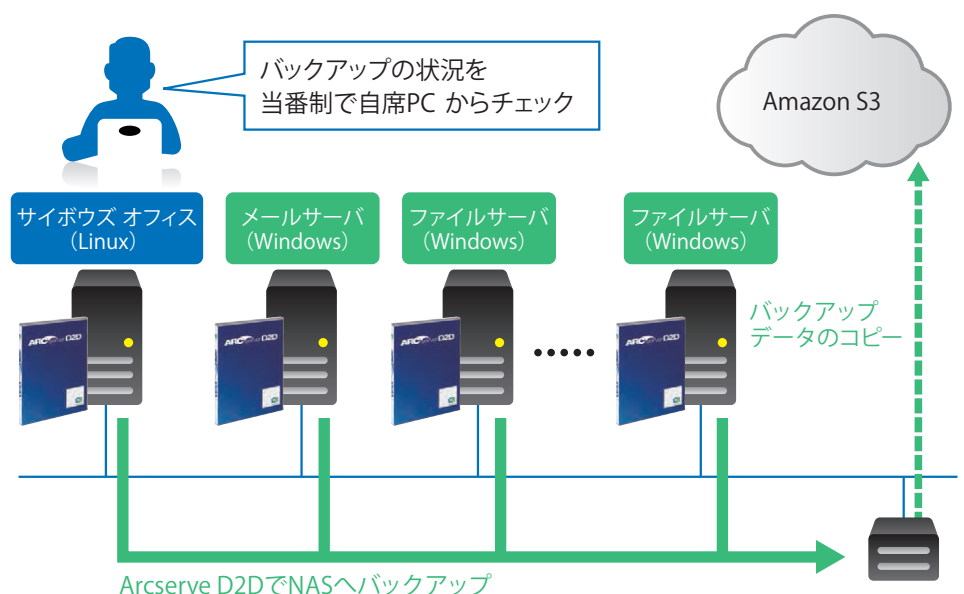
「Arcserve Central Protection

Manager」を使用することで、バックアップの状況を一元的に確認できるようになっている。

バックアップデータの保管先にはQNAPのNASを使用しており、バックデータをさらに「Amazon S3」へとコピーすることで、低コストでBCP/DR環境を実現している。

「2010年にWindows系のバックアップを『Arcserve D2D』で標準化した理由の1つがコスト効率の良さでした。また遠隔地へのバックアップについては、データセンターにラックを借りるなど様々なパターンを想定してコストを検証した結果、『Amazon S3』が最も低コストだと判断しました」(政氏)

アプライドテクノロジー様 バックアップ体制図 ※設計イメージ



注1：OSの再インストールやバックアップソフトウェアのインストールを必要とせず、システムを一度に復旧する事。Arcserve D2Dでは標準機能で使用できる。

注2：フルバックアップの取り直しを必要とせず、継続的に増分バックアップを行う事ができるArcserve D2Dの独自技術。

効果

システム全体の耐障害性を高めつつバックアップの管理を大幅に省略化

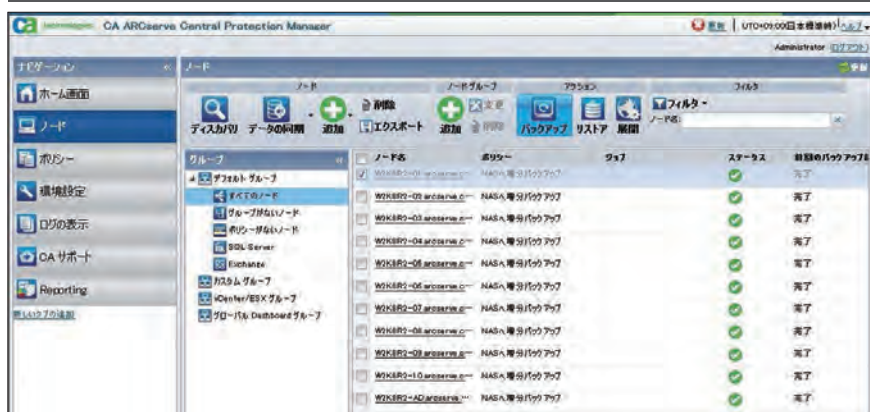
このように災害時のシステム復旧も視野に入れた信頼性の高いバックアップ環境を低コストで実現したアプライドテクノロジーだったが、バックアップソフトウェアを「Arcserve D2D」に統一した事で運用業務も大幅に効率化した。現在、毎日のバックアップ状況のチェックは技術部門のスタッフ10人が毎週交代制で行っているという。

「バックアップに関する情報の確認が、従来はサーバごとに別々の画面で行っていたのを1画面に集約できるようになりました。画面を見れば状況が一目瞭然で、専門知識がなくてもわかりやすく、しかも自分のPCからWEBブラウザでチェックできるので、増分バックアップが短時間でできるようなったことと併せてかなりの省力化につながっています」(大村氏)

同社では、自社の体験を踏まえて、顧客へのサーバ構築においても「Arcserve」シリーズをさらに強力に推奨していく構えだ。

「今では長期レンタルでのサーバ構築のほとんどの案件で『Arcserve D2D』を採用しています。バックアップの重要性についてあまり理解されていないお客さまであっても、極力『Arcserve D2D』でバックアップを行うようご提案しております。当社には、お客さまの情報システム部門の代役という使命もあると認識しているので、これからもお客さまの立場に立って、安全・安心そして低コストなシステムを提案し続けていきたいですね」と語る喜田氏。複雑さを増すITの世界において、高い技術力と調達力、そして顧客の要望に柔軟かつ的確に応えるサービス提供体制を誇るアプライドテクノロジーの役割は、今後ますます大きなものとなっていくに違いない。

Arcserve D2D for Windowsの統合管理画面



ユーザ企業様プロフィール



アプライドテクノロジー株式会社

アプライドテクノロジーは2013年、おかげさまで創業30周年を迎えました。お客様と時代のニーズに応えようと、「IT機器の循環利用」をスローガンに、ハードウェアのレンタルをはじめ多種多様なビジネスモデルを作り上げて参りました。そして今、時代に合わせた新しいサービスとして、未来を創造するエコロジーを形にするため、役目を終えたレンタルアップ機器を、さらに保守部品などとして再利用するサービスをスタートしております。是非、私たちと一緒に、「あと5%のRE-cycle / RE-use / RE-furbishされたIT機器の活用」をご検討ください。

- 本社所在地／東京都新宿区東五軒町3-8
- 設立／1984年
- 資本金／3億3,360万円
- 事業内容／IT機器のレンタル、中古IT機器の販売、コンピュータシステムの保守メンテナンス、IT機器の買取り、コンピュータシステムのコンサルティング
- URL／<http://www.atc.co.jp/> IT機器の販売、保守、買取りサイト／<http://tokyohardwarestock.atc.co.jp/>

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。
製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright © 2014 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

お問い合わせ窓口： ジャパン ダイレクト (0120-702 -600)

※記載事項は変更になる場合がございます 2013年12月版

詳しくはWebで！

Arcserve.com/jp

検索

Printed in JAPAN